

第3学年 社会科授業案

第5時限

授業者 浅見 莉穂

1 単元 日本国憲法改正 ~ 70年の檻を変えるべきか ~

2 単元の目標

- 個人の尊重の考え方と法の意義に対する関心を高め、民主的な社会の在り方について、社会の形成者としての立場から考えている。 【社会的事象への関心・意欲・態度】
- 日本の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について、具体的な事例を通して多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【社会的な思考・判断・表現】
- 日本国憲法の条文をはじめとするさまざまな資料から、現代社会での問題を読み取り、自分の考えを裏付ける資料として活用している。 【資料活用の技能】
- 社会生活における法の意義と憲法に基づく政治の重要性、日本国憲法の基本原理について理解し、その知識を身につけている。 【社会的事象についての知識・理解】

3 単元設定について

本学級の生徒は男女の仲が良く、互いに声をかけ合いながら、前向きに学級活動や学習活動に取り組んでいる。社会科の授業では、話し合い活動で積極的に意見を述べる生徒だけでなく、聞き手となっている生徒も、うなずきやあいづらなどの反応を示し、熱心に耳を傾けている姿が見られる。公民的分野の最初の単元である「現代社会と私たちの生活」では、対立と合意、効率と公正といった社会的な見方・考え方をロールプレイを通して学習してきた。まだまだ視野は狭いものの、自分一人だけではなく、多くの人にとって納得できるものを目指そうとする姿勢が見られるようになった。

本単元では、民主主義の基礎となる、人権尊重の考え方や、法に基づいて政治が行われることの意義について学習をしていく。特に、国の最高法規である憲法によって、私たちの生活は守られ、人間らしい生活を送ることができているが、あまり意識しないまま暮らしている生徒がほとんどであろう。憲法に保障された基本的人権の理念は、人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果であり、過去幾多の試練に堪えてきた価値あるものである。しかしながら、急激な社会の変化に伴って、憲法の基本原理や、そこに保障された人権のみでは対応できなくなっていることも周知の事実である。近年では、改憲についての議論が選挙の論点になることも少なくない。そのため、3年後に有権者として政治に参加していく生徒にとって、日本国憲法の意義や課題を対立と合意、効率と公正の見方を踏まえ、学ぶことが非常に重要なことだと考えた。

そこで、学習の序盤では、榎大樹著『檻の中のライオン』(2016、かもがわ出版)を活用し、立憲主義の重要性をおさえ、日本国憲法の基本原理を学習していく。その際、國民主権では投票率の低下、平和主義では自衛隊と我が国の安全保障の在り方、基本的人権の尊重では差別などいまだに解決されていない課題や権利同士の対立、社会の変容に伴う新しい人権の必要性を取り上げる。そして、学習の最後に「約70年間変わらない日本国憲法を改正すべきか」という課題を提示し、これまでの学習してきた問題について、このままの憲法で解決することができるのかどうかを考えさせていく。

以上の学習を通して、自己の考えを伝えあい、互いの考えを認めあい、自己の考えを再構築して高めあう中で、持続可能な社会を目指す公民としての資質を育てたい。

4 本時について (14/15時間)

(1)目標

- 今日の憲法改正問題に関心をもち、現代社会と日本国憲法の溝を埋める方策を考えようとすることができる。 (社会的事象への関心・意欲・態度)
- 民主的な社会生活を営むために、日本国憲法を改正すべきかどうかを様々な憲法改正草案を比較検討することによって多面的・多角的に考え、公正に判断することができる。 (社会的な思考・判断・表現)

(2)準備

- ワークシート

(3) 授業過程

学習活動	○手だて△▽支援
1 前時の振り返りをする それぞれの改正案で納得したことと、疑問に思ったことは何か	
・「戦力」や「健康で文化的な最低限度の生活」など抽象的な記述が多いから、もっと具体的に憲法で定めた方がいいと思う ・新しい人権が登場してきているから、国民の権利を保障するために、書き加えていく必要がある ・改正の仕方から、権利、平和主義など論点はたくさんある	
2 憲法改正をするべきか、学級全体で話し合う 約 70 年間変わっていない憲法を改正するべきか	<p>④教具をつかって自身の立場を明らかにする ▽前時で使用した改正案を踏まえた意見が出たら、良い点や問題点を確認させる</p>
<p><改正すべき></p> <ul style="list-style-type: none"> ・70 年前から社会が変化した ・権利を十分に保障するために最高法規である憲法に書いていくことが重要 ・権利だけでも簡単に追加できる仕組みにしたらよい ・憲法を改正したことがないからこそ、改正してみることも将来の日本をよりよくする経験になるのではないか ・改正を話題にすることで、政治に関心をもつ人も増えるかもしれない <p><改正すべきではない></p> <ul style="list-style-type: none"> ・70 年も大切に守られてきた新しい人権は法律で保障できている ・解釈の余地があるので、逆に柔軟に対応できる ・柔軟に変更できる法で社会の変化には対応すればよい ・基本原理や国の体制は重要なことなので、簡単に改正すべきではない ・投票率の低い現状のままで国民投票をするのは民意が正しく反映されない 	<p>②生徒の相互指名で進め、質問したり、反対したりするよう注意させることで、仲間と関わり合う意識を高める ▽「○○の意見についてどうか」と切り返し、ペアと確認させることで、仲間の意見に対する自己の考えをもたせる</p> <p>△憲法改正に関する過去の世論を提示し、社会全体の意見も踏まえて考えさせる</p>
3 仲間の意見を踏まえて、改めて自己の考えをワークシートに書き、仲間の考えを読み合う ・国家権力を制限できるのは憲法しかないから、法律に頼らず改正すべきだと思う ・法律も国民が選んだ代表がつくるものだから、法律で社会の変化に対応してもよいのかもしれない ・改正を急いで、中途半端な国民の意見が反映される方が危険だから、もっと国全体で議論を盛んにしてから検討した方がいい	<p>④異なる意見や感心した部分に線を引き、自己の考えをコメントさせる ▽コメントの型を提示することで、書き出しやすくさせる</p>
4 本時の振り返りをする ・選挙のとき、どの人がどんな考えをもっているか、これからは憲法に対する考えに注目して見てみたいと思った ・授業のように、まず話題にして話し合ってみることが大切で、最高法規だからこそ、国民が注目していくようにしたい	

<評価>

- ・今日の憲法改正問題に関心をもち、現代社会と日本国憲法の溝を埋める方策を考えようとしたことができたか、振り返りの記述から判断する。
- ・民主的な社会生活を営むために、日本国憲法を改正すべきかどうかを様々な憲法改正試案を比較検討することによって多面的・多角的に考え、公正に判断することができたか、発言や振り返りの内容から判断する。

5 単元の構想 (15 時間完了)

《学習の流れ》

《ねらい》

- 法で権利や自由を保障することで、人々の生活が守られていることを理解する

- 権利の必要性や意義を、具体的な事例を通して理解する

- 複数の憲法改正案を比較検討し、それぞれの良い点と問題点を読み取る

- 現行憲法では、現代社会の課題を網羅しきれない部分があることを理解する
- 民主的な社会生活を営むために、憲法を改正すべきかどうか、公正に判断する

日本の憲はどうなものだろう

憲法とはどんなものだろう

①～④

- 長い歴史の中で人権を大切にする考えが広まってきた
- 憲法は憲のようなもので、ライオンのように力をもつ国家権力の力を制限して、国民を守っている
- 日本では、日本国憲法を最高法規とし、国民主権、平和主義、基本的人権の尊重が定められている

日本国憲法では、どのような権利が保障されているのだろう

⑤～⑪

- 平等権や自由権など、今では当たり前の権利が保障されている
 - 人権を保障するための権利も定められている
 - 現代社会の変化に応じた権利も新たに登場している
- ⇒日本国憲法では、さまざまな権利が保障されており、国民の生活を守っている

70年変わらなかつた日本国憲法を改正すべきか

日本国憲法の改正案を検討しよう

⑫

- 国会で改正できる軟らかい憲法にする案が出ている
- 国民投票は現在の投票率から考えると、本当に国民の意見が反映されるのかな
- 自衛できる実力として、国際協力も憲法で認めようとしている
- 非核三原則のように、被爆国だからこそ憲法でも核兵器について定めていくべきだ
- 社会の変化によって必要になった新しい人権を、法律だけでなく、憲法で守っていけるといい
- 権利だけは簡単に追加できる改正の手続は効率がよいと思う

日本国憲法を憲法を改正すべきか

⑬ (本時)

<改正すべき>

- 70年前から社会が変化した
- 新しい人権は憲法では明記されていない
- 権利を十分に保障するために最高法規である憲法に書いていくことが重要
- 憲法を改正したことがないからこそ、改してみることも将来の日本をよりよくする経験になるのではないか

<改正すべきではない>

- 70年も大切に守られてきた
- 新しい人権は法律で保障できている
- 解釈の余地があるので、逆に柔軟に対応できる
- 柔軟に変更できる法で社会の変化には対応すればよい
- 投票率の低い現状のままで国民投票をするのは民意が正しく反映されない

本单元の学習のまとめをしよう

⑭

- 憲法によって、私たちの生活は守られている
- どのような憲法にするかを決めるのは私たちだからこそ、関心をもち、常に考えていくことがよりよい生活をしていくことにつながる

《手立て》

- 歴史的分野と関連づけながら、人権保障の必要性を捉えさせる

- 新聞記事やニュース、テレビ番組などを提示し、生徒の学習意欲を向上させる

- これまで出された憲法改正案の比較検討を通して、憲法改正に対する自己の考えを構築させる

- 憲法改正、平和主義、国民の権利の3観点で話し合うことで、憲法と社会の在り方にに対する考え方を再構築させる